ボーリング柱状図

調　査　名　平成16年度標津断層帯調査業務委託

ボーリング№　1 1

事業・工事名　平成16年度地震関係基礎調査交付金事業

シート№　1

ボーリング名	S04-Yo-1	**調査位置**	標津郡中標津町字養老牛			**北緯**	43° 34' 18.4"
発注機関	北海道立地質研究所　地域地質部			**調査期間**	平成 16年 10月 7日 ～ 16年 10月 12日	**東経**	144° 44' 18.5"
調査業者名	サンコーコンサルタント株式会社　札幌支店 電話（011-837-5537）	**主任技師**	田邊　謹也	**現場代理人**	越谷　賢	**コア鑑定者**	渡辺　良夫・越谷　賢
						ボーリング責任者	高橋　雅之
孔口標高	191.62m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方向**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平 0° 鉛直 90° 0°
総掘進長	20.00m					**使用機種**	

試錐機	鉱研0P-1	**ハンマー落下用具**	トンビ
エンジン	ヤンマーNFD-13	**ポンプ**	

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	191.20	0.42	0.42		耕作土	黒褐			火山灰質シルトブロックを混在。	
	190.74	0.46	0.88		火山灰質シルト質砂	黒褐			礫混り火山灰質砂が挟在。最下部は腐植土。	
1	190.48	0.26	1.14		軽石	橙褐			逆級化。火山礫混在。(Km-1f)	
	189.92	0.56	1.70		火山灰質シルト質砂	褐灰～灰褐			再堆積性の火山灰質砂(最上部･下部）、塊状の火山灰?、腐植土(2層)からなる。	
2	188.88	1.04	2.74		軽石	橙灰～明黄灰			軽石の形状･火山礫含有率から2層区分される。(Ma-h～i)	
	188.81	0.07	2.81							
3	188.33	0.48	3.29		火山灰	灰～褐灰			細粒ガラス質。(Ma-j)	
4					火山灰質シルト質砂	灰褐			上部は腐植土でMa-kが挟在。下部は塊状不淘汰で軽石･凝灰岩礫を含む。	
	187.02	1.31	4.60		軽石	橙褐～黄褐灰			角～亜角で径は5～30mm主体。一部火山礫(径15mm)が散在する。最下部は逆級化。(Ma-l)	
5	186.87	0.15	4.75							
					火山灰質シルト	橙褐～褐			塊状でローム質。亜角礫･炭質物(木片)が混在。	
	185.67	1.20	5.95		礫混り火山灰質砂質シルト	黄褐灰～褐灰			塊状不淘汰。径5～40mmの亜角～亜円礫(凝灰岩･安山岩･軽石)を混在。5.1m付近:火山灰質シルト挟在(傾斜15°)。5.8～5.86m:下位の凝灰岩を削り込む。	
6										
7					弱溶結～非溶結凝灰岩	暗褐灰			デイサイト質で暗褐灰色の火山ガラスが主体。軽石(径5～20mm･最大径60mmで一部レンズ状)･灰色凝灰岩角礫が混在する。(Kpf1-Ⅳ) 6.7m以深:やや固結度良くなる。 8.3m以深:軽石多い。 9.60～10.0m:灰色味帯び固結度は悪い。フロー基底の非溶結部と推定される。	
8										
9										
10	181.62	4.05	10.00							
					火山灰質砂	明褐灰～黄褐灰			塊状不淘汰。一部葉理が発達。軽石･凝灰岩角礫の細礫が散在する。基底の層理面の傾斜は15°。	10/9 10.95
11	180.65	0.97	10.97							
	180.18	0.47	11.44		火山灰質シルト	褐灰			塊状。凝灰岩亜角～亜円礫(径2～10mm)･軽石(2～10mm)が散在する。下位層から漸移。	
12					玉石混り砂礫	褐灰			安山岩･凝灰岩の亜円～亜角主体。所々切長4～20cmの安山岩の玉石を含む。基質は火山灰質シルト混りの細～粗粒砂。	
	178.86	1.32	12.76							
13	178.20	0.66	13.42		凝灰質砂岩	黄褐			シルト質でやや淘汰悪い。(幾品層)13.25mまで塊状、以深葉理(5°)発達。12.9m:褐灰色凝灰質シルト岩薄層が挟在。	
14										
15					火山礫凝灰岩	褐灰～黄褐灰			径2～10mmの暗灰～褐色の風化礫、明黄灰色軽石の亜角～亜円礫が混在する。 16.94～17.07m：軽石を多含。 16.62～16.94m:凝灰質シルト岩が挟在する。 16.98～17.11m暗褐灰色砂岩の薄層数層挟在し、5～10°傾斜する。	
16										
17	174.16	4.04	17.46							10/16 17.35
	173.88	0.28	17.74		凝灰質砂岩	明褐灰～暗褐灰			シルト～細砂粒径に正級化。葉理10～15°傾斜	
18										
	172.45	1.43	19.17		玉石混り砂礫	褐灰			安山岩･凝灰岩の亜角～亜円礫(径10～60mm)主体で所々玉石が混在。基質は火山灰質シルト混りの細粒～粗粒砂。	
19										
20	171.62	0.83	20.00		軽石混り凝灰岩	明褐灰			塊状。軽石(亜角～亜円･径2～20mm)･亜角～亜円礫(径2～5mm)が散在。 19.75m以深軽石少ない。	

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60

原位置試験

深度(m)	試験名および結果

試料採取

深度(m)	試料番号	採取方法
0.74	S04-Yo-1-0.74	
1.17	S04-Yo-1-1.17	
1.28	S04-Yo-1-1.28	
1.38	S04-Yo-1-1.38	
1.51	S04-Yo-1-1.51	
1.60		
2.74	S04-Yo-1-2.74	
2.87	S04-Yo-1-2.87	
2.92	S04-Yo-1-2.92	
3.00		
8.40	S04-Yo-1-8.40	
8.62		

室内試験（　）	掘進月日
	10/7
FT年代測定・火山灰分析	
	10/8
	10/9
	10/10